



AGU100  
ADVANCING  
EARTH AND  
SPACE SCIENCE



## 公開シンポジウム

### 「地質災害の研究とその調査方法の標準化に向けた取り組み」

開催趣旨：地震、津波、地すべり、土石流などの地質災害は近年世界各地で頻発している。地質災害科学に従事する者は、地質災害を科学的解明し、その情報を正確かつ迅速に発信することが要求されている。

本シンポジウムでは、主に世界各国で起きた津波、海底地質災害、斜面・河川災害の科学的研究成果を議論する。さらに研究の根拠となる調査手法を世界の研究者が共有することを目指し、災害メカニズムのガイドラインや調査手法の世界標準化に関する研究についても議論する。

**主催**：日本学術会議地球惑星科学委員会IUGS分科会

**共催**：IUGS Task Group on Geohazards、日本地球惑星科学連合、American Geophysical Union

**後援**：公益社団法人東京地学協会、一般社団法人日本応用地質学会、公益社団法人日本地すべり学会、国際津波防災学会、公益社団法人物理探査学会、一般財団法人日本リモートセンシング学会

**日時**：令和2年（2020年）5月23日（土）10：00～17：30

**場所**：日本学術会議講堂 〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34 TEL：03-3403-3793（代表）

**参加費**：無 料

**発表言語**：英語あるいは日本語

**申し込み方法**：大久保（Okubo-Yasukuni\*jspace.com.jp（\*を@に変更して送信して下さい））あてに、表題を「5月23日公開シンポジウム参加」とし、お名前とメールアドレスを記載してお申し込み下さい。なお、定員は300名です。それを超えると締め切らせていただく場合があります。

総合司会 大久保 泰邦（日本学術会議連携会員、一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構技術参与）

10:00	北里 洋 （日本学術会議連携会員、国立大学法人東京海洋大学教授）	シンポジウム趣旨説明
基調講演		
10:10	戎崎 俊一（理化学研究所主任研究員、国際津波防災学会）	地震、海底地すべり、津波
10:40	Jose Pacheco（Research Institute for Volcanology and Risk Assessment所長）	Geohazards on the Azores archipelago
第一部：津波調査ガイドライン		
11:10	Nalin Ratnayake（モロツワ大学教授）	Post-tsunami field survey -Case study at Sri Lanka
11:30	西村 裕一（北海道大学地震火山研究観測センター准教授）	津波が沿岸地質に及ぼす影響についての緊急調査：国際調査研究の経験と課題
11:50	菅原 大助（ふじのくに地球環境史ミュージアム教授）	津波数値解析における基盤データとその意義
12:10	後藤 和久（東京大学大学院理学系研究科教授）	津波堆積物調査マニュアルの整備
休憩（12：30～13：30）		
第二部：斜面災害		
13:30	Passakorn Pananont（カセサート大学助教授）	Seismicity and Potential Seismic Hazard of Thailand
13:50	倉橋 稔幸（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所上席研究員）	北海道における近年の斜面災害
14:10	西村 智博（国際航業株式会社 公共コンサルタント部 部長）	西日本豪雨土砂災害
14:30	山崎 秀策（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所研究員）	北海道胆振東部地震の斜面災害
休憩（14：50～15：10）		
第三部：海底地質災害		
15:10	Andrew Tien-Shun Lin（台湾国立中央大学副教授）	Marine geohazards in Taiwan
15:30	谷岡 勇市郎（北海道大学理学研究院地震火山研究観測センター教授）	海底地すべりによる津波のモデル化と災害軽減
15:50	川村 喜一郎（山口大学大学院創成科学研究科准教授）	海底地すべりと津波：レビュー
16:10	小川 勇二郎（筑波大学名誉教授）	過去の地震による海底地すべり、液状化、注入現象の例：5月24日の野外見学旅行の案内
総合討論：小川 勇二郎（筑波大学名誉教授）		